

分野別情報**第4回化学物質・汚染物質専門調査会幹事会議事概要****■第4回化学物質・汚染物質専門調査会幹事会■**

日時:平成20年9月2日(火) 14:00 ~ 15:35

場所:食品安全委員会 大会議室

議事概要:

(1)清涼飲料水中の化学物質(ベンゼン、1, 2-ジクロロエタン、臭素酸、トリクロロエチレン、ジクロロメタン、テトラクロロエチレン、トルエン、カドミウム)の規格基準改正に係る食品健康影響評価について

1)ヒトに対する経口発がんリスク評価に関する手引き案について

・清涼飲料水を対象とした「ヒトに対する経口発がんリスク評価に関する手引き」が了承された。

2)ベンゼン

・審議の結果、発がん性を指標とした場合の発がんユニットリスクを 2.5×10^{-5} (mg/kg体重/日)、非発がん毒性を指標とした場合の耐容一日摂取量(TDI)を $18 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

3)1, 2-ジクロロエタン

・審議の結果、発がん性を指標とした場合の発がんユニットリスクを 6.3×10^{-5} (mg/kg体重/日)、非発がん毒性を指標とした場合のTDIを $37.5 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

4)臭素酸

・審議の結果、発がん性を指標とした場合の発がんユニットリスクを 2.8×10^{-5} (mg/kg体重/日)、非発がん毒性を指標とした場合のTDIを $11 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

5)トリクロロエチレン

・審議の結果、発がん性を指標とした場合の発がんユニットリスクを 8.3×10^{-5} (mg/kg体重/日)、非発がん毒性を指標とした場合のTDIを $1.46 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

6)ジクロロメタン

・審議の結果、TDIを $6 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

7)テトラクロロエチレン

・審議の結果、TDIを $14 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

8)トルエン

・審議の結果、TDIを $149 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/日とし、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

9)カドミウム

・審議の結果、耐容週間摂取量(TWI)を $7 \mu\text{g}/\text{kg}$ 体重/週とし、一部修正の上、評価書(案)を食品安全委員会へ報告することとされた。

<参考>

2)染料や合成ゴム、合成洗剤、有機顔料等の合成原料として使われています。主に車の排気ガスから環境中に排出されますが、地下水に侵入すると、容易に揮発しないことが知られています。

3)、5)~7)化学合成原料、溶剤、金属の脱脂剤、塗料、ドライクリーニングなどに使用され、地下水汚染物質として知られています。

4)原水中の臭化物イオンが高度浄水処理のオゾンと反応して生成されます。

8)各種化学物質の原料や、塗料等の溶剤として使われています。排出量の多い化学物質のひとつで、工場からの排出や自動車の排気ガスにより環境中に放出されます。大部分が大気中に存在しますが、水道管の内面の塗装等により、水道水に混入することがあります。

9)自然界に広く分布している銀白色の重金属です。主な用途として、ニッケル・カドミウム蓄電池の電極材、ポリ塩化ビニルの安定剤、プラスチック・ガラス製品の着色料などに使われています。

(2) その他

・平成21年度の「自ら評価」の案件候補のひとつとして検討されている「食品中のヒ素に関する食品健康影響評価」の評価実施の必要性について、議論がなされた。

<参考>

・地殻や海水に広く分布する金属です。プランクトンや藻類によって海水から取り込まれ、蓄積されます。我が国では主に魚介類や海藻から摂取されています。地質の影響、鉱泉、鉱山排水、工場排水などの混入によって河川水などで検出されることもあります。